

ドメイン名廃止に伴うリスクと JPRSの取り組み

2026年7月7日(火)
株式会社日本レジストリサービス(JPRS)

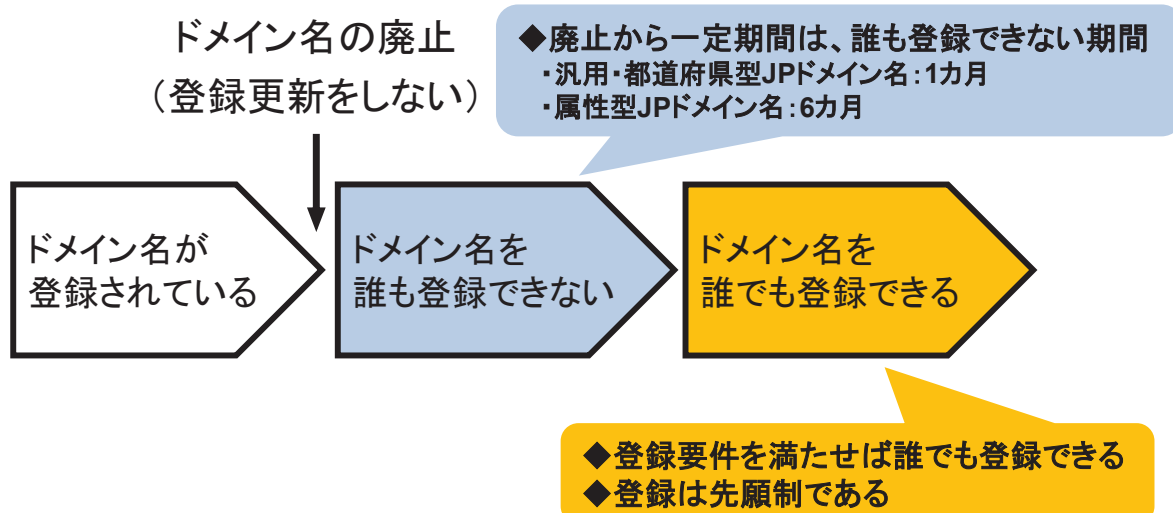
目次

1. ドメイン名のライフサイクル
2. ドメイン名廃止に伴うリスクやその低減方法
の紹介
3. 中古ドメイン名オークションについて

1. ドメイン名のライフサイクル

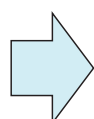
ドメイン名の登録～廃止まで (ライフサイクル)

- ドメイン名は、廃止されたのち、誰も登録できない期間を経て再度登録が可能な状態となる
(元の登録者とは異なる登録者による登録も可能)



廃止されたドメイン名の再度の登録

- 廃止されたドメイン名が、元の登録者とは異なる者によって再度登録されることによるトラブル事例
 - 「covid19-info.jp」
 - 厚生労働省の新型コロナウイルス感染症に関する情報提供サイトで利用されていたドメイン名が廃止後にオークションに掛けられ、再度登録された事例
<https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/0000211289_00011.html>
 - 「mcafee.jp」
 - 「マカフィー」の公式ブログに使用されていた「mcafee.jp」が廃止後に再度登録され、無関係なWebサイトのドメイン名として使用された事例
<<https://www.itmedia.co.jp/news/articles/2501/10/news166.html>>



ドメイン名廃止後に再度登録された場合のリスクの認知向上が必要

2. ドメイン名廃止に伴うリスクやその低減方法の紹介

ドメイン名廃止に伴うリスクやその低減方法 ^{JPRS} の紹介(1/2)

JPRSのWebサイト、指定事業者向け説明会、外部イベント登壇の際などに以下を紹介

- ドメイン名廃止後に再登録された場合のリスク
 - 元のWebサイトにアクセスしようとしたインターネットユーザーが、異なるWebサイトに意図せずアクセスしてしまい、詐欺等の被害に遭うリスク
 - ブランドを表す文字列を登録していた場合、そのブランド価値を毀損するようなコンテンツを含むWebサイトに利用されるリスク
- リスクを認識した上で登録継続の要否を検討し、ドメイン名を廃止する場合の事前の対策
 - ユーザーや関係者に対し、Webサイトやサービスの終了を周知し、終了後は不用意にアクセスしないよう注意を呼びかける

<<https://jprs.jp/registration/suspended/>> 参照

Copyright © 2026 株式会社日本レジストリサービス

7

ドメイン名廃止に伴うリスクやその低減方法 ^{JPRS} の紹介(2/2)

- 2026年1月23日に日本知的財産権仲裁センター(JIPAC)とJPNIC主催で開催されたシンポジウム「ドメイン名紛争の解決 - JP-DRP制定25年 ～ブランド・商標とインターネットの交錯～」に登壇し、ドメイン名廃止に伴うリスクやその低減方法を紹介

第1部 基礎編：商標とドメイン名のトラブルとその予防、対応、解決策	
前半 テーマ：「未然に防ぐために：ドメイン名トラブルの実態と基本対策」	
モデレータ：	中村素典(JPNIC理事)
講演者：	遠藤淳(JPRS) [資料1-1] 941KB 是枝祐(JPNIC) [資料1-2] 1.3MB 山下健一(JAIPA) [資料1-3] 1.64MB
対象：	ドメイン名登録者や法務担当者、企業・組織の企画・広報担当者、ドメイン名に関する基礎知識から具体的な紛争対応策までを幅広く学びたい方。
内容：	1. ドメイン名に関連したトラブルのリアル 2. 未然にトラブルを防ぐためにぜひ知っておきたいこと 3. トラブルが起きたらどうする？必要な情報の調べて正しく対処

<<https://www.nic.ad.jp/ja/materials/drp/20260123/>>より抜粋

Copyright © 2026 株式会社日本レジストリサービス

8

3. 中古ドメイン名オークションについて

「JP-DRP 裁定例検討報告書」 における課題提起

- JPNICが2026年4月に「JP-DRP裁定例検討報告書(2026年版)」を公開

< <https://www.nic.ad.jp/ja/materials/drp/20260331/> >

- 中古ドメイン名オークションで第三者による落札された後、DRPの裁定で以前の登録者に登録が移転された事例(DOCOMO-EXHIBITION.JP)の報告において、以下の指摘がなされている。

現在の制度上、フリーライドを目的としたドロップキャッチを生じせしめるような中古ドメイン名のオークションの運営を認めざるを得ないとすれば、せめて、そのような目的で中古ドメイン名を入手したとしてもJPドメイン名紛争処理方針の下で容易に奪われてしまうことを様々な手段で明確にすることで、(どうせ奪われてしまう)中古ドメイン名をオークションサイトで購入するような者をこれ以上生み出すことがないようにすることが肝要であろう。

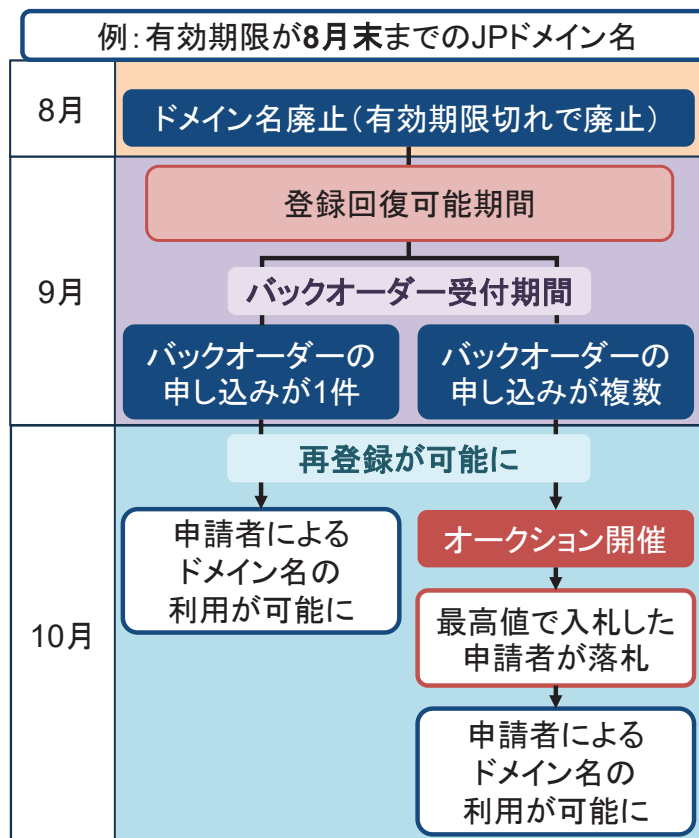
(「報告書」4ページから5ページより抜粋)

参考：中古ドメイン名オークションの仕組み

- 世界各国のレジストラが多数のgTLD/ccTLDのドメイン名を対象にオークションサービスを提供中
- 仕組みの一例
 - 登録されていたドメイン名が有効期限を迎えて廃止に
 - バックオーダーの受付開始
 - 申し込み数により以下分岐
 - 申し込みが1件の場合、申請者が登録権を獲得
 - 申し込みが複数の場合、オークションにより登録権の獲得者を決定
 - 申請者によるドメイン名の登録・利用が可能に

バックオーダーとは

有効期限切れで廃止されるドメイン名の登録申し込み(予約)を、再登録が可能になる前(開放前)に行える仕組み



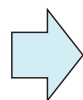
Copyright © 2026 株式会社日本レジストリサービス

11

JPRSの対応

- 報告書における課題提起に対する考え方

現在の制度上、フリーライドを目的としたドロップキャッチを生じせしめるような中古ドメイン名のオークションの運営を認めざるを得ないとすれば



廃止されたドメイン名のオークションを含む、ドメイン名登録に関連する様々な付加サービスを各事業者が提供することは、事業者間の競争の促進とインターネットユーザーの多様なニーズへの対応、選択肢の提供に寄与している

せめて、そのような目的で中古ドメイン名を入手したとしてもJPDドメイン名紛争処理方針の下で容易に奪われてしまうことを様々な手段で明確にする



JPRSが従来から行っている、ドメイン名廃止に伴うリスクやその低減方法の紹介(注意喚起)に、中古ドメイン名オークションに関する事項を加えることを検討する

Copyright © 2026 株式会社日本レジストリサービス

12

